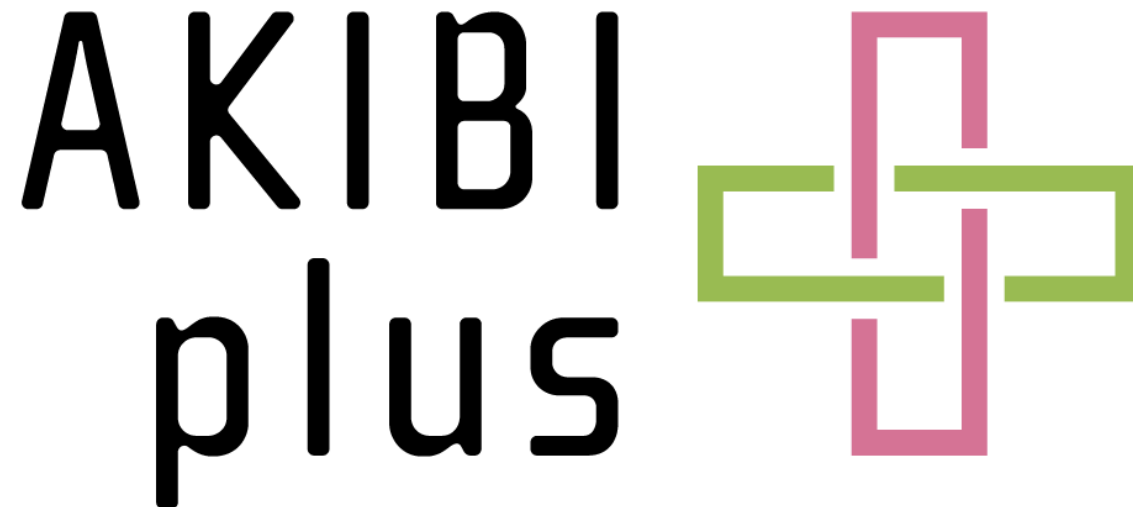


平成28年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」

秋田公立美術大学・AKIBI plus 2016



2016年6月9日

👉 本事業のねらい

秋田公立美大に所属する、様々な専門性を持つ教員が、
県内4つの地域と連携し、アートマネジメント人材育成を行います。

👉 実施事項

- 秋田県内4つの地域を「芸術価値創造拠点」と指定。
秋田公立美大、受講生、招聘アーティスト、地域住民、ローカルメディア等が協同し、各拠点をリサーチ、それぞれの特性と課題に合った文化事業の企画・運営。
- 受講生は一般公募する。各拠点で開催される文化事業に積極的に携わり、アートマネジメントを積極的に学び、さらに実践していける人材を育成。
- 4つの拠点間も相互に連携・交流できるプログラムを実施。
- 初年度と併せ、今年度実施内容を加え、今後のアートマネジメント人材育成を踏まえた「テキストブック」を制作。記録やアーカイブにも力を入れる。

👉 募集する受講生は **2**種類あります！

A 各拠点専属型

- ・ 4つのプロジェクト拠点いずれかの地区に専属し、運営を実践する受講生。
- ・ 各拠点、定員制。
- ・ 参加にかかる旅費・交通費等は自己負担。

※各プロジェクトによって参加条件が異なります。プロジェクト毎のページにてご確認ください。

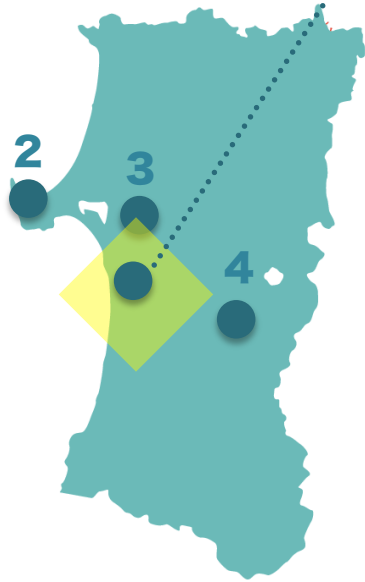
B 拠点横断型

- ・ 各拠点で設定された公開イベントへ参加、オブザーバーとしての受講生。
- ・ 定員は上限無し。
- ・ 参加にかかる旅費・交通費等は自己負担。
- ・ 課題提出有り。（レポートなど）

*応募は、郵送・メールにて受付します。詳細は下記HPご参照ください。

<http://akibi-plus.jp/>

👉 この4つの地域が『芸術価値創造拠点』です！



1 [拠点] 秋田市

[タイトル] AKIBI AIR Project 2016 : 岩井優 (プロジェクト・展覧会タイトル未定)

[担当] 滞在アーティスト : 岩井優 (美術家)

担当教員/企画運営 : 慶野結香 (秋田公立美術大学社会貢献センター 助手)

田村剛 (秋田公立美術大学景観デザイン専攻 助手)

[日程] 滞在制作 : 2016年7月18日 (月) ~ 8月28日 (日)

展覧会 : 2016年8月26日 (金) ~ 9月25日 (日)

〈事前リサーチ1 : 2016年5月1日~5月6日 / 事前リサーチ2 : 6月8日~6月14日〉

[概要]

昨年度「地域課題応答型アーティスト・イン・レジデンス」としてAKIBI plusで実施した、美術家・岩井優を迎えての滞在制作および展覧会企画の第二弾。

昨年度岩井優は、美大の所在する新屋地域を綿密にリサーチし、湧水が使われなくなったり、地域の音頭が途絶えたりしている現実に着目し、私たちの「習慣」の変化をアートによって浮き彫りにしました。

本年度は新屋での成果を繋ぎつつ秋田市内に活動を拡大して、さらに私たちの「習慣」の変化から社会的課題に迫り、アートでしかできない表現を行う予定です。現在、見られなくなってしまった8mmフィルム、Hi-8、VHSなどのホームビデオの存在に着目し、協力者や提供者を求めています。

[応募要項]

- アーティスト・イン・レジデンスやアートプロジェクトの企画・運営に関心のある一般の方、大学生以上の学生 (専門分野は問わない)
- まちづくりや地域の資源、社会問題に興味があり、アートによるアプローチに関心がある方

👉 この4つの地域が『芸術価値創造拠点』です！

2

[拠点] 男鹿

[タイトル] ショートレジデンスプログラム「神々と生きる島を探る in 男鹿（仮）」準備講座

[担当] 担当教員：山内貴博（秋田公立美術大学景観デザイン専攻 准教授）

地域アドバイザー／企画運営：猿田真（里山のカフェににぎ主宰）

[日程] 7月・9月・11月開催

[概要]

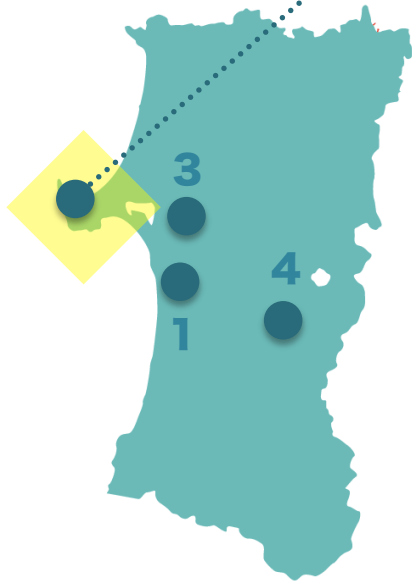
古来より人と自然が共に暮らし続けてきた“男鹿半島”。男鹿半島には一年に一度、異界からナマハゲと言われる来訪神（マレビト）が訪れ、また「神の魚」とも呼ばれる鱒の大群が押し寄せます。この神秘的土地には、円空、菅江真澄、岡本太郎といった数々の思想家や表現者が惹き付けられ、旅人として滞在したことでも知られています。

時代の流れと共に人々の暮らしや価値観も変わり、人口減少や空家の増加が進む中で、地域の行事やお祭り、信仰の在り方も変る時代になってきました。その中で地域の伝統と暮らしを守る意識や信仰の厚さを再認識して、他所から来る人と地元の人達が“芸術”という鍵でお互いの扉を開く“ショートレジデンスの場”を設けるプロジェクトチームを立ち上げました。そこでは「現地で（歴史・地理・民俗など）色々学ぶ→男鹿の風土を理解する」「農作業や地域行事など生活を体験する→男鹿の生活を理解する（地域住民たちとの絆を作る）」ことを目指して様々なプログラムや運営体勢を考案します。そして、男鹿半島に滞在するプログラム参加者がみずから共同体の一員となって、土地の記憶をさぐり、新たな芸術的実践を体験します。

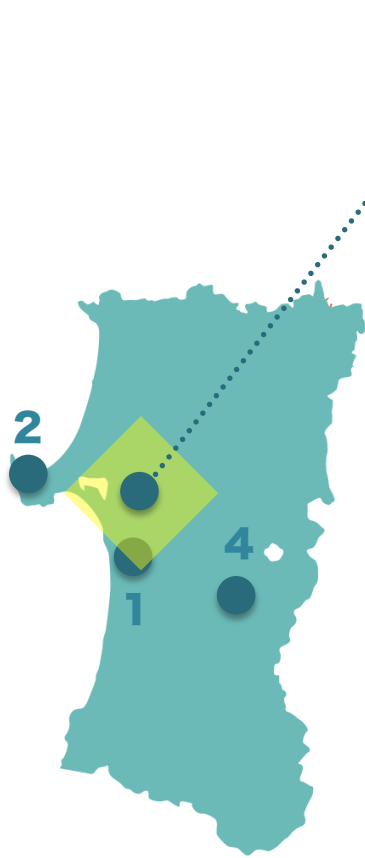
今回はその為の準備講座として受講生が興味を持って参加しやすい様、地元のサポーターやアドバイザーの意見を取り入れながら地域にどのように溶け込み暮らしていけるかを考え、具体的かつユニークな方法で講座を開きます。

[応募要項]

- 地元行政や経済団体の職員
- 街づくりや地域課題への取り組み、アートプロジェクトの企画・運営に関心のある地元住民



👉 この4つの地域が『芸術価値創造拠点』です！



3

[拠点] 五城目

[タイトル] プロジェクト『ARTとSOCIALの交差点』

[担当] 担当教員：秋田公立美術大学アーツ&ルーツ専攻教員

地域アドバイザー／企画運営：柳澤龍（シェアビレッジ御庭番）

[日程] 募集期間：7月、プログラム実施：8～12月

[概要]

五城目町は中世から続く「市」の町。人口減少が続くこの町で、町外の資源に頼るのではなく内発的発展を目指しています。土着ベンチャー事業による地域に根付いたベンチャーの支援や女性起業家の育成などがその例です。地域が持続可能な町になるために、必要なことの1つに経済の地域内循環があげられます。地産地消は食事だけでなくエネルギーや地域企業にも必要な観点になりました。本年度は、この場所で近年立ち上げられたさまざまな文化事業と連携することによって、

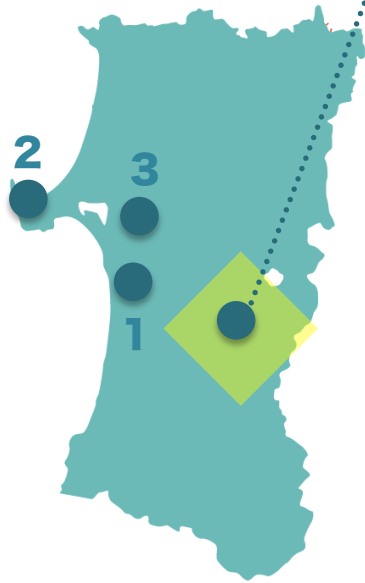
「食と暮らし」「家と暮らし」「里山の守り方」「信仰と歴史」「朝市と地政学」といったさまざまな観点に基づいたフィールドワークを行い、里山に暮らしてきた五城目の人々の生活文化を芸術価値として血肉化することを目指します。フィールドワークの成果は、町内に2016年度に開設されるギャラリーや秋田公立美大学にて発表します。このように、未来に必要な観点を、地域の暮らしをアートで切り取ることでアートと社会課題を繋ぐことを目指します。

[受講者]

地元住民と一般参加者が1対1の割合のチームで取り組みます。

- 五城目の生活文化、風習、信仰などに関心がある方
- まちづくりや社会問題へ実際に取り組みたいと思っている方

👉 この4つの地域が『芸術価値創造拠点』です！



4

[拠点] 角館

[タイトル] 未定～地域素材を活かして角館で新しいコトをつくりましょう～』

[担当] 担当教員：阿部由布子（秋田公立美術大学ビジュアルアート専攻助教）

企画協力：矢津吉隆（美術家/京都アートホテルクマガスク代表）

地域アドバイザー／企画運営：佐藤励（彫刻家・有限会社角館きがた）

[日程] 別紙参照

[概要]

カリキュラムは、受講者に体験的な学びの機会を提供することを柱としています。受講者は、座学で知識を得るのみならず、先行事例の現地視察や実践者とのディスカッションを通じて、地域型アートプロジェクトに関する理解を体験的に深めることができます。カリキュラム中盤からは、観光地におけるアートプロジェクトの成功実績を有する矢津吉隆(美術家/アートホテルクマガスク代表)とともに、受講者が角館人としての強みを持ち寄って、“角館の新しいおもてなし”を表現する体験型の展覧会(名称未定)を企画・実施。そうして自分たちで創りあげた新しい芸術価値を、ローカルメディアや同事業内の他のプロジェクトとの連携を通じて域外へ発信する過程もまた、受講者に地域型アートプロジェクトの目的や意義を再認識させる経験となることでしょう。

[受講者]

- 地元行政や経済団体の職員・街づくりや地域課題への取り組み、アートプロジェクトの企画・運営に関心のある地元住民

(1) 自由参加をのぞく講座のうち8割以上に出席できる

(2) 遠方の視察に自費で参加できる

(3) 積極的な発言と関与

※講座内で企画される『角館の地域課題に対応するアートプロジェクト』の体験型展覧会に関連して、広報、展示環境の整備、作品の制作、記録作成、経理、観客誘導などのタスクが発生するため、これらも取り組むこと